

児童精神科医ができること

杏和会 阪南病院 精神科 宋大光

児童精神科外来で出会う子供たち

- ・ 幼少期に自宅で父に暴力を毎日 . . .
- ・ 質問に対して「普通」、「微妙」 . . .

私が外来でよく受ける質問

「先生、ここでは何をしてもらえますか？」

児童精神科医ができることって？

診断、予後の説明

精神療法（本人、保護者とも）

薬物療法

場合によっては入院治療

療育の紹介、助言

福祉、利用できるサービスの紹介

他の機関との連携

精神療法！

診察で意識していること

1. 入ってこられたら立ちあがり目をみて挨拶
2. まず話をきく
3. 何が問題の本質なのかを常に考える
4. その診察の時間はその患者さんのことだけに集中する。
5. 説教、説得はできるだけしない。提案を。
6. 1回の診察で何か1つは持って帰ってもらう

- ・ 僕はひたすら自分の診察室という殻に閉じこもり、この診察室という空間を共有しているほんの数十分だけその患者さんのことを一生懸命考える。
- ・ こんな希薄な付き合いで患者の生活全体にコミットしているとはとてもいえない。このことに僕ら医者は自覚的であるべき。

「患者様」が医療を壊す 岩田健太郎著

医者の中には自分が治してるなんて勘違いしている人がいる。思い上がっちゃだめ。病気を治すのは神様で、神様と患者が相談して治ろうとするんだ。医者はその間に立って、患者を勇気づけながら神様の邪魔をしないようにしなければならない。

「風に立つライオン」のモデルになった柴田紘一郎先生

児童精神科外来で出会う子供たち

- ・ 幼少期に自宅で父に暴力を毎日 . . .
- ・ 質問に対して「普通」、「微妙」 . . .

→これらの共通点はしっかりとした対人関係ができないということ

そんな中でも外来に数回来てよくなる
子供たちに出会った。

彼らの共通点は

親子関係（コミュニケーションも含めて）がしっかりできている、サポート体制がある子どもたちは少々のことがあっても立ち上がれることが多い。

子供たちに私たちができること

しっかりとした対人関係ができるよ
うになることをサポートする

具体的には

私たちがその子に対してわかってくれる、
強い、やさしい、壊れない対象になる。

「君が何を話しても驚かないよ」

私たちを通して安定した人間関係を経験してもらおう

そのときの注意点

- 1 回で話を聞く時間、頻度をはじめに決めておく

これは診察室で児童精神科医だけがすること
じゃなくて、教師、ケースワーカー、臨床心理士、
看護師などを含めた、困っている子供たちに接
する大人みんなができること。

児童精神医療の目標

その子たちが大人になったときに一人で生きていけるようにすること。

つまり自立

「素敵な大人になってもらいたい」

こどもの精神療法とは

人は精神療法によって別人のようになってしま
うほど大きく変わることはない。実際には人は
少しだけ生き方を修正するだけで十分に幸せ
に生きれるのかもしれない。

精神療法で少し生き方を患者自らが修正し、
私はその成果を実感できるところまで小さな明
かりを手に同行する医師でありたい。

(斎藤万比古先生)

今日私が伝えたかったこと

1. 子どもたちに対して手ごたえのある大人としてしっかり対峙していく。
2. 子供たちに寄り添い、その子の自立を目指す
3. 精神科医一人の力は微力です。だからこそみなさんと一緒に子どもたちと向き合いたい。

みなさまへのお願い

- ・ 受診が必要だと思われる方には阪南病院を勧め
ていただく！
- ・ 患者さんの客観的情報を簡潔に集めていただく
主訴、一番の問題点、家族背景、精神科の家族
歴、簡単な経過、現在の状態
(これを当院相談室までお伝えください^^)